

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2015-秋

No.79

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



修学院離宮寿月観 2004年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人

文化財保護・芸術研究助成財団

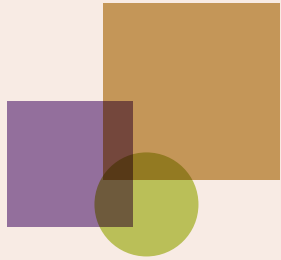
FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

このところ新国立競技場問題で、「建築」の問題がマスコミなどで論じられている。見積り額の価格が二五〇〇億円という膨大な数字になったことで、その是非を問う論調だったのだが、このプロジェクトに関わった人々がさまざまな発言をした。そのなかで私が注目していたのは、デザインを選定に関わった建築家の発言だったのだが、ここで「建築とはなにか」という基本的な発言がされると、思っ、じつは期待していた。もとより、莫大な予算がずるずると膨れ上がるなどもつてのほかで、誰がいつどのような決定をしたのかが明らかにされていない、じつにいい加減なプロジェクトであることは紛れもない。しかし、この間の議論で論じられているのが、価格と決定プロセスについて、元の予算がいくらになったか、この工事がいくらかかるのか、といったお金の話ばかりである。「建築とはなにか」という基本的な議論がまったく出てこないことに、大いに失望させられた。

このような公共建築は、予算規模も大きく、注目度も高く、そのうえ将来長くその地にあるため、見る人々の視覚的な経験に寄与し、都市景観としてその地のイメージを作り上げる重要な役割を担っているのである。東京タワーを見ながら育ってきた人、姫路城のそばで子ども時代を過ごした人、パリのエッフェル塔やバルセロナのサグラダ・ファミリア聖堂、ローマのコロッセオを毎日見て仕事をしている人、彼ら個人の記憶に建築物が深くかわり、のみならずそれが集団的な記憶となり、美術や文学や音楽などによって表象され、本物を見たことのないひとびとにさえ、土地の記憶として刻まれて文化の歴史を作りあげて行く、そうした力をもったのが建築物ではないだろうか。建築の持つこのような力が私たちの文化にどのように作用しているのか、まずそれをきちんと論じないことには、あのような巨大建築が建てられようとした理由がわからなくなってしまう。

巨大建築物の時代が終わった、という判断ももちろんあってよい。その時代の人々が、何を優先するかは、その時代が決めればよいのである。しかしそれが単にお金の問題だけなら、あまりに寂しいことではないだろうか。建築物は単なるモニュメントではないので、当然機能がそれに伴う。本来に優れた機能を追求し、外観を目立たなくさせるといふやり方もありうるだろう。今回の問題は、というより近代の日本人は、その辺の覚悟があまりに中途半端に思える。

公共建築としてここ二十年くらいでどんなできた有名建築家による、個性的で人目を引く美術館について考えてみよう。結論から言えるのは、使用者としての美術館の職員たちが満足している建築は、まずひとつもない、ということだ。その理由ははっきりしている。美術館には高価な美術品を保存展示するために、さまざまな条件が課せられている。お客さんが多く来るところだから、安全性や適切な順路も必要だし、研究や教育の機能も持たねばならない。娯楽の側面もあるのだ、カフェやレストランも必要だ。美術館の設計はじつはかなり難しいのである。しかし日本には美術館建築を専門にするほどの経験のある建築家はまだいないので、注文者側がきちんと何が必要か伝えなければならぬのに、それがじつは伝わっていないのだ。有名建築家はステータスが高いから、自治体の担当者は強



建物と建築のあいだ

本物の建築を求めて



国立西洋美術館・館長
馬淵 明子
(まぶち・あきこ)

い要求ができない。また、それを使う側の美術館スタッフは、こうした設計の段階ではほとんど意見を聞いてもらえない。というわけで、見栄えはよいが、使い勝手のわるい美術館が出来てしまうのである。個人の住宅ならそうはゆかないだろう。一生に一度の建築である、また毎日の生活を送る場所だ。注文者は必死に必要なものを訴え、予算が膨れあがることなどありえず、機能と外観のせめぎ合いで合意点に到達するのである。

優れた建築はこうした努力の賜物であるべきで、設計者も注文者も何が優先されるべきなのか、真剣に考えることが必要ではないだろうか。建築物は多くの点で公共性が高いから、いくら自分でお金を出したからといって、周囲になじまない独りよがりの建物をつくるべきではない。東京の住宅地に赤白のストライプの家を建てた漫画家がいたが、言語道断である。建築が文化として人々に親しまれ記憶に残ってゆくためには、丁寧な合意のプロセスを欠いてはならない。そうでないと単なる金のかかった建物にすぎなくなってしまうのではないだろうか。

リラ修道院

(ブルガリア共和国)



ユネスコ世界遺産(文化遺産)シリーズ

©UNESCO

首都ソフィアの南方約一二〇キロほどの山奥に、一〇世紀に創設されたビザンチン様式の修道院。リラの聖ヨハネ修道院などとも称される。フレスコ壁画、イコン、精巧な木彫りなど数多くの宗教美術品が保存されていることでも知られている。

十五〜十九世紀にかけて、イスラム教徒のオスマン・トルコに支配されていた時代にも、ギリシャ正教を守り続けていた。十九世紀に独立運動の中心地にもなったように、修道院はブルガリアの人々にとって文化面はもちろんのこと、精神的支柱とも言える存在である。

(一九八三年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

陸前高田は今

津波被災文化財の再生に向けて

日本を、世界を、震撼させた東日本大震災。発生から四年半が経過。人々の努力によって被災地は復興にむけて歩み続けている。

被災文化財も例外ではない。その現状の一端を陸前高田からレポート。



津波被害の複雑さ

平成23年(二〇一一)3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とその後の大津波により、陸前高田市では「陸前高田市立博物館」「海と貝のミュージアム」などの文化財関連施設が壊滅的被害を受け、約56万点の資料が被災しました。3月末から開始した文化財レスキューでは岩手県教育委員会、岩手県立博物館をはじめとした県内の関係機関のご支援を得ながら約46万点の資料を救出し、閉校予定であった山間部に位置する旧生出小学校(おいで)に移送されました。

被災した博物館からのレスキュー活動は、肉体的にも精神的にも疲労困憊の状態でしたが、3ヵ月強の短期集中的な作業でした。レスキュー後に待ち構えていたのが被災した資料の再生に向けた超長期的作業でした。内情をご存知のない外部の方々から「修復はどの程度進んでいるのか」とのご質問を受けることが多々ありますが、その都度、修復の前にやらなければいけない「安定化処理」について説明をしてきました。今回の津波被災資料の再生にはまず、安定化処理を行い、その後修復を行う必要があります。汚れた海水に浸かった資料はそのまま放置しておく、と、さまざまな菌、塩分などの影響により著しく劣



化が進行してしまいます。安定化処理とは、その劣化の要因を取り除き、長期に渡って安定的に保管できる状態にするための処理のことを言います。具体的には除泥→除菌→脱塩→乾燥→経過観察という工程で行います。



陸前高田市立博物館
副主幹
熊谷 賢
(くまがい・まやう)

未経験という困難

被災直後は作業環境も整っておりませんでした。文化庁による被災ミュージアム再興事業を活用して徐々に作業環境を整えながら進めています。被災した資料の素材は金属、紙、石、骨、植物、繊維、皮など多様であり、それぞれの素材に合わせて処理を行う必要があります。しかし、国際的に見てもこれだけ多種多様な素材からなる膨大な量の文化財が津波の被害を受けた例はなく、その処理方法は未確立な部分が多く、処理方法の試行錯誤はあの震災から4年半が経過した現在も続いています。

陸前高田市立博物館では閉校となった小学校で安定化処理の作業を開始した直後から東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会、東京国立博物館、岩手県立博物館をはじめとする関係機関のご支援、



ご指導をいただきながら46万点もの被災資料の安定化処理を継続していきます。

「風化」との戦い

これまでの4年半で安定化処理が終了した資料は約16万点ですが、これらは自然史資料、一部の紙資料、民俗資料で処理の方法が確立されたもののみです。しかし、インクが溶出してしまふものや油画など水に浸漬して脱塩を行うことが困難な資料などをはじめとして安定化処理の方法が確立できていないものも含め、約30万点が未だ処理を待っている状態にあります。今後はこのような資



陥ってしまっています。だから、どんなに時間がかかったとしても残していかなければならないのです。作家の京極夏彦先生が「未来は過去が作る」とおっしゃっていますが、私たちがここであきらめてしまったのでは過去を失い、未来を創造することができなくなってしまう。この思いを持ち続け、いまだ終わりの見えない戦いを続けていきたいと思っていますので、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

筆者略歴

一九六六年、岩手県陸前高田市に生まれる。一九九五年、陸前高田市立博物館学芸員。二〇〇四年、陸前高田市海と貝のミュージアム学芸員。二〇一一年、陸前高田市立博物館の文化財レスキューを行う。二〇一三年より現職。現在も被災文化財の再生に向け奮闘中。

アフガニスタン流出文化財の返還について

財団事務局長
湯浅 芳雄
(ゆあし、よしお)

戦乱の中、国外へ持ち出され、流浪の末に日本にきた「文化財難民」と称されたアフガニスタンの貴重な文化財が、紆余曲折を経て、帰国の途へ……

流出文化財保護日本委員会(委員長:宮田亮平当財団理事長、東京藝術大学長)は、このたび、保護・保管しているアフガニスタン流出文化財(102点)の返還を行うことになり、記者発表を行いましたので、概要を報告します。

なお、流出文化財は、日本で開催される特別展「黄金のアフガニスタン」守りぬかれたシルクロードの至宝」でその一部が展示され、展覧会終了後にアフガニスタン側へ返還されますが、すぐに戻るわけではなく、特別展の作品とともに世界各国を巡回して最終的にアフガニスタンへ戻ることになります。

○日時:平成27年8月5日(水) 11時~12時
○場所:日本外国特派員協会(東京・有楽町)
○発表者等:

宮田亮平(流出文化財保護日本委員会委員長)
野口 昇(流出文化財保護日本委員会委員、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長)
アハマド・バシル・ガフリー

(駐日アフガニスタン大使館一等書記官)
井上洋一(東京国立博物館学芸企画部長)

〔概要〕
始めに、宮田委員長から返還の経緯等について次のとおり概要説明がありました。

◆◆◆
流出文化財の保護は、※故平山郁夫先生が提唱し

私たちは、先生の高い志を継いで、世界の貴重な文化遺産の保護にこれからも取り組んでいく必要があると思います。

◆◆◆
次に、サイド・ムハンマド・アミン・ファティミ駐日アフガニスタン大使から感謝の意を込めたメッセージが、ガフリー一等書記官から代読されました。概要は次のとおりです。

アフガニスタン政府及び国民に代わり、日本国政府、日本国民とりわけ流出文化財を保護してい

て、ユネスコの同意の下、委員会が2001(平成13)年に開始しました。先生は、戦乱によりアフガニスタンから日本に流入した文化財を「文化財難民」と位置付け、委員会を設立(事務局:公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団)し、返還できる状況になるまで委員会が保護・保管しているものです。

本年5月に、委員会はアフガニスタンの情報文化大臣から、流出文化財の返還に関して書簡を受け取りました。

大臣からの書簡には、来年、日本で開催される特別展に合わせて流出文化財を展示し、展覧会終了後にアフガニスタン側へ返還してほしい旨が記されており、委員会として返還することにしたものであります。

先生の行動の原点は、文化による世界平和への貢献、文化による社会貢献というものでした。「文化財難民」の保護もそうした精神に裏付けられたものです。

このたび、アフガニスタンからの流出文化財の里帰りの目途が立ったことは先生も大変喜んでおられるのではないのでしょうか。

ちなみに、本年は先生が亡くなられて6年。7回忌にあたります。

※平山郁夫(平成21年12月2日没。日本画家、ユネスコ親善大使、東京藝術大学前学長、流出文化財保護日本委員会前委員長、当財団元理事長)

◆◆◆

ただいた流出文化財保護日本委員会と故平山郁夫先生に深く感謝を申し上げます。流出文化財は、先生の深い知識と芸術的な洞察力によって救われたと言っても過言ではありません。

◆◆◆
最後に、東京国立博物館井上洋一氏から来年、日本で開催される特別展(アフガニスタンの「バクトリアの黄金」を中心とした30点と「流出文化財」の15点を展示)の内容等について概要説明がありました。

引き続き、野口委員から保護にいたる経緯等について次のとおり概要説明がありました。

偏狭な原理主義のタリバン政権が偶像崇拜を禁じるとの名目の下に、アフガニスタンの文化遺産の破壊を始め、ユネスコ、国連、平山先生たちの懸命の説得工作にも係わらず、2001年3月、バミヤンの二つの大仏は完璧に破壊されてしまいました。また、貴重な文化遺産が、さまざまなルートで、多くは闇ルートで、世界に流れ出しました。

平山先生は、アフガン文化財を「文化財難民」と命名されて、これを保護し、アフガニスタンに真の平和が戻り安全な状況になれば、アフガニスタンにお戻しするという「アフガニスタン流出文化財」保護活動が開始されました。

私たち、日本ユネスコ協会連盟も、国内での署名と募金活動を展開し、パリのユネスコ本部に届けました。先生の熱い思いと、世界の文化財を守ると言う固い信念無くして、この事業は推進できなかったと思います。

パリのユネスコ本部も、これに賛同し、ユネスコと先生との合意に基づき、この事業は展開されました。

先生は、常々、「文化財を守ることは、人々の心を守ることだ。」と仰っておられました。

アフガニスタンのカブール博物館には、以下のような有名な文言が掲げられています。

「A Nation can stay alive when its Culture and History stay alive.」

なお、特別展の日程及び会場等は次のとおりです。
※特別展「黄金のアフガニスタン」守りぬかれたシルクロードの秘宝」

・日程及び会場:九州国立博物館(平成28年1月1日(金)~2月14日(日))
・日程及び会場:東京国立博物館(平成28年4月12日(火)~6月19日(日))
(なお、東京国立博物館に展示される流出文化財以外は、東京藝術大学において展示される予定です)



記者発表の様様。左より井上、野口、宮田、アハマドの各氏。右は通訳

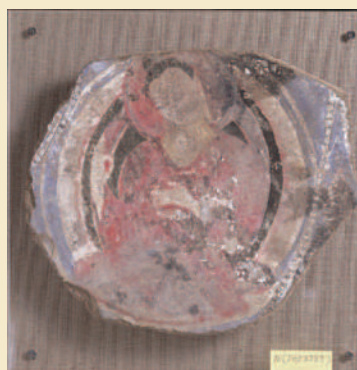


返還の経緯等を説明する宮田委員長

返還される流出文化財



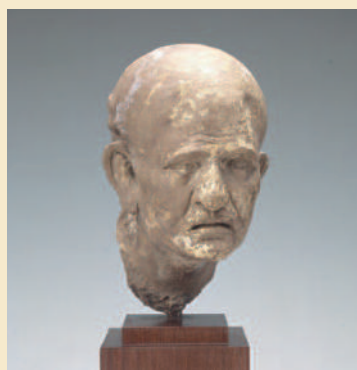
カーシャパ兄弟の仏礼拝図



壁画断片



ゼウス神像の左足



仏弟子像頭部

絵画研究における模写の必要性

― 国宝「源氏物語絵巻」の現状模写事業から

絵画を学び、創作する者にとって模写は重要な修練の場でもある。
偉大な先人・芸術家の技術や精神性を直接肌で学びとることが出来るからだ。
ここでは「現状模写」の世界にふれてみる。

国宝「源氏物語絵巻」との出会い

東京藝術大学美術学部絵画科日本画研究室では、日本画第三研究室の修了制作の一環として国宝「源氏物語絵巻」現状模写事業を開始した。徳川美術館所蔵の詞書二十八面と絵十五面、五島美術館所蔵の詞書九面と絵四面、計五十六面の現状模写を七年間かけて、両美術館寄贈用と藝大収蔵用として各場面二点ずつ完成させた。制作者は卒業生も含めると五十六名にのぼる。当時の大学美術館長であった現・永青文庫館長竹内順一氏の御尽力を得て、徳川美術館前館長徳川義宣氏、現館長徳川義崇氏の御理解を賜り、五島美術館ならびに同館学芸部長の名児耶明氏、及び東京美術倶楽部の御支援を受けて本事業が推進されることになった。

日本画第三研究室の模写制作は、吉田善彦先生が藝大所蔵作品の模写を授業に取り入れたことが始まりである。その後、平山郁夫先生が引き継ぎ、高松塚古墳、法隆寺、敦煌の壁画を模写し、福井爽人先生のもと十九年間続いた敦煌の壁画模写で一区

模写のむずかしさ

現状模写制作の手順としては、まず原寸大の写真に薄美濃紙をあてがい、写真の上から上げ写しを行う。上げ写しでは蒔絵筆や狼狽面相筆などの細い筆と油煙墨を使い、和紙を捲くりながら原寸大写真の残像を目に焼き付け、図柄や剥落、損傷などを画面全体の濃淡を含め克明に拾っていくという丹念な作業が続く。実物と寸分違わぬように仕上

切りがつき、現在のスタッフに引き継がれることになった。ここで次の模写制作の候補に挙がってきたのが、国宝「源氏物語絵巻」であった。日本絵画の源流は、遠く中国（敦煌）から伝わってきた壁画芸術が日本に渡ることによって開花し、平安期には日本画としての古典的絵画技法が確立され、現在の国宝級の作品が生まれた。この時期に制作された国宝「源氏物語絵巻」は、我が国が世界に誇れる至宝であり、画家になる為の最高の教本であると考えられた。



完成作品（国宝「源氏物語絵巻」第五十帖 東屋一 絵 藪山桃子筆 平成23年 紙本彩色 徳川美術館）

重な体験をすることができた。国宝を前にして、極度の緊張感の中、限られた時間内であったが実物と対照し現場で彩色を施すことが可能となった。本現状模写事業の成功はこうした特別観覧無くしては語れないであろう。彩色が完了したらパネルから本紙を剥がして表具を行う。国宝原本の表具同様に金やプラチナの箔と泥で作成した截金マツトで本紙の周囲を装飾し、作品を保存するために桐箱に納めて完成とする。

徳川美術館および五島美術館の特別な御厚意と



原本同様に表装を施された、学生達による模写作品の数々（「国宝 源氏物語絵巻に挑む ―東京藝術大学 現状模写―」平成23年 東京藝術大学大学美術館にて）

計らいによって、国宝「源氏物語絵巻」の現状模写制作を実現できたことは、私たちにとって大変貴重な経験と実績となった。完成した模写は古典研究の教材以上の価値を持って、今後も長く受け継がれていくことであろう。

将来への展望

国宝「源氏物語絵巻」は、これまでいくつか模写されてきたが、絵だけではなく、詞書を模写することとは過去に例のない事業であった。文字を含めた料紙の美しさを再現することが、日本画家としての絵画的な素養を身につける貴重な研修になると考え、また、現状を記録しておく必要性も感じた結果、両美術館が所蔵する全ての場面を模写し、「源氏物語絵巻現状模写 平成本」として保存する大きなプロジェクトとして発展していった。「源氏物語絵巻」のような国宝自体を海外に持ち出すことはほとんど不可能に近いが、平成の模写であればそれも可能になり、将来的には海外での展開も視野に入っ



東京藝術大学美術学部
絵画科日本画教育研究助手
藪山桃子
(まゆやま・ももこ)



国宝「伴大納言絵巻」の模写を制作する学生

ている。

現在、日本画第三研究室では新たな模写事業として、出光美術館の御協力のもと、国宝「源氏物語絵巻」と並び日本三大絵巻の一つと称される国宝「伴大納言絵巻」の現状模写を行っている。作品が異なれば、当然、作品に対する描き手のアプローチも異なる。しかし、我々が絵描きとして培ってきた技術、また日々研究され受け継がれてきた模写のノウハウは、国宝という最高峰の作品を前にして恥じない、高いクオリティの模写作品を作り出す自信がある。

それは、単なる小手先の技術に拠るものではない。何より、作品に対する深い敬意とそれに学ぶ謙虚さ、絵描きとしての自負、そして、現代における原本の姿を最も正確に後世に伝える第一級の資料を作り出さんとする、意欲的な姿勢に拠って作り出されている。

日本人が古来育んできた美意識は世界で最高水準であろうという自負心が私たちにはある。その日本美術の素晴らしさを、模写という表現を通じて世界に発信し、証明することもまた、模写の担う重要な役割と考える。

筆者略歴

一九八三年東京生まれ。二〇〇九年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。二〇一四年同大学大学院美術研究科日本画博士後期課程修了。論文「胎内化する都市―楽園図」で博士号（美術）取得。日本美術院院友。この間、画家としても多くの個展を開くなど旺盛な創作活動を展開している。

和紙② 海外の和紙コレクションの調査

前回では和紙の優れた面を様々な角度から紹介したが、幕末から明治にかけてヨーロッパからやって来たふたりの男がその優秀さに着目。そして母国への報告書に……。

ふたりの西洋人とそのコレクション

紙の歴史を明らかにするためには、記録文書の研究とともに、現物資料の研究が必要である。しかし、紙の制作年代、名称、産地（できれば工房名あるいは人名）が明らかな紙資料は限られている。江戸時代の和紙コレクションとしては、加賀藩の第四代藩主であった前田綱紀（一六四三―一七二四）の「百工比照」617点、また、江戸時代の国学者、有職家であった橋本経亮（一七五五―一八〇五）の「遠年紙譜」30余種^①などがわが国に残されている。しかし、前者は小紙片が手鑑帖の台紙に張り付けられているために、紙の密度、漉きムラなどの基本調査は行えない。一九六九年の竹尾洋紙店の「手漉和紙」以降は全国の和紙見本を集めた本が繰り返し刊行されているが、伊勢辰が収集し、一九三九（昭和14）年に日本実業史博物館のために納めた「諸国漉場紙見本」などの和紙コレクションは江戸と現在の間を埋める貴重なものである。海外には江戸時代から明治初めに収集、寄贈された和紙コレクションがある。オランダ、ライデン国立民族学博物館にはシールボルト（一七九六―一八六六）が一八二六年の江戸参府旅行の帰りに大阪で約130種の紙をまとめて購入し、「大日本諸国名産紙集」（写真1）として持ち帰ったものなどがある。ロンドンのビクトリア・アンド・アルバート美術



写真1 大日本諸国名産紙集（ライデン国立民族学博物館所蔵）

館には日本駐在英國公使パークス（一八二八―一八五）が明治の初めに政府の命令で収集したコレクションがある。他に万博あるいは物品交換などでヨーロッパに送られ、収集された和紙コレクションがパリ、ライブッチ、グラスゴー、デンマークなどにある。私は、前記のライデン国立民族学博物館所有のシールボルトコレクション^②とロンドンのビクトリア・アンド・アルバート美術館所蔵のパークスコレクション^③の調査を行い、実物資料による紙の性状に関する各種データをまとめて、データベースを作成した。これは今後の他の研究者にも大変有用であると考えている。

和紙の産地と紙の評価

パークスコレクションの東京で購入した紙の産地とその紙の評価を図1に示す。ある特定の店に並んでいたであろう商品であり、調査もこの中の各紙1点のみで評価している。また、産地から江戸に運ばれるものはセレーションを受けていることも考慮に入れる必要があるが、大きな傾向は読み取れると考えている。

良質な紙の産地としては美濃、越前が際立っている。ついで、土佐、伊予、周防が紙産地として有力であったことも読み取れる。

パークスコレクションの特徴の一つは同一の種類の紙について、上中下の品質のものを多く集めている点（写真2）。この紙の等級と地合（繊維の分散の程度、密度ムラなど）および坪量との関係を、紙の等級とそれぞれの評価あるいは大きさの順序が同じものの、差がないもの、ランダムなものに分類した。図2は紙の地合について比較したものであるが、半数以上の紙が地合のみによつてはその上中下の区別が決定されていないことがわかる。一方、同じデータを坪量との関係で整理したものが図3であるが、紙の上中下の区別は坪量によつて決まっているものも多かったことがわかる。

現在では薄い紙を漉く場合には漉き簀の目を細かいものに変えるのが常識となっている。柳橋が昭和38年ごろより数年かけて全国の漉き場を調査した結果^④によれば、1寸（3cm）あたりのひこの本数はコピー紙など極薄物で45本、改良紙などの薄物で40本、障子紙・細川紙など中物で30〜33本、傘紙など25本、紗漉き用などの厚物で17〜24本の漉き簀が標準として用いられていた。



写真2 パークスコレクションの紙資料とラベル 筑後の千歳紙（V&A美術館所蔵）

料9bシリ紙のうちの資料

坪量が軽い紙はやはり吉野紙の5g/m²であった。美濃の典具帖は約10g/m²であり、現在の物とほとんど変わらない坪量であった。簀伏せ法の吉野紙と異なり、この程度の坪量がプレス後湿紙を剥がして板に張り付ける実用的な下限なのであろう。紗漉きの紙は和唐紙、泰平紙、和製画仙紙、間似合、襖紙、行成紙、中用紙であり、コウゾに較べて繊維の細かいミツマタあるいはガンピの繊維から造られた紙であった。

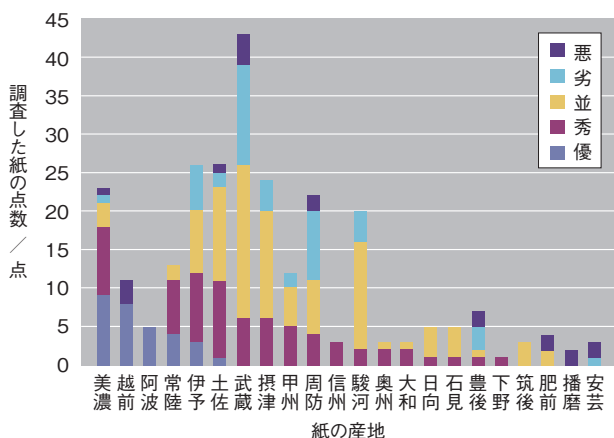


図1 紙の産地による紙の地合の評価

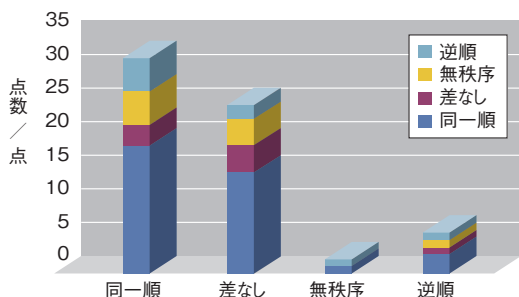


図2 紙の等級と地合との関係

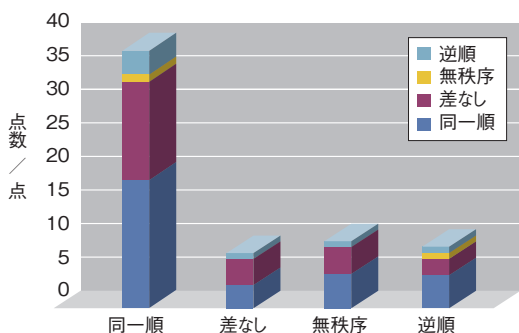


図3 紙の等級と坪量との関係

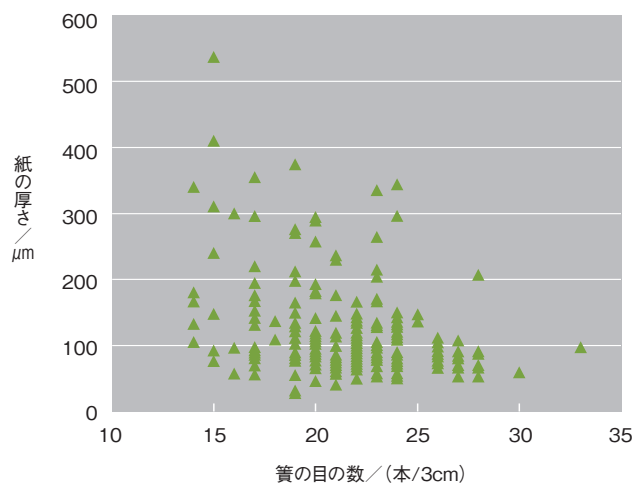


図4 簀の目の数と紙の厚さの関係

- ① 増田勝彦：パークスコレクションとその時代、海を渡った江戸の紙 パークスコレクション展 カタログ、1822（1994）
- ② 稲葉政満、加藤雅人：ライデン国立博物館所蔵 シールボルトコレクションの紙質調査、東京藝術大学美術学部紀要、第46号、33-122（2009）
- ③ 稲葉政満、小宮英俊：パークスと紙コレクションの紙質調査、東京藝術大学美術学部紀要、第32号、5-77（1997）
- ④ 柳橋眞一：和紙 風土・歴史・技法、講談社（1981）

筆者略歴

東京農工大学林産学科卒、東京大学大学院林産学専攻修了（農学博士）
岐阜大学林学科助手を経て一九八四年に東京藝術大学大学院助手となり、現在は文化財保存学専攻（保存科学）教授、一九九五年に文部省在外研究員としてイギリスのビクトリア・アンド・アルバート美術館で研修。専門は保存科学、製紙科学、和紙文化研究会会長、他



稲葉政満
(いなば まさみ)

20周年を迎えた

妙高夏の芸術学校

新潟県妙高市にとって、今年是人々の記憶に残る年だったと思います。三月に北陸新幹線が開業し、上越妙高駅が誕生。同じ三月、上信越高原国立公園から分離して妙高戸隠連山国立公園が誕生。そして、妙高市は市制十周年を迎えました。三重の慶賀だったわけですが、トリは二十周年を迎えた「妙高夏の芸術学校」だったでしょう。

妙高市赤倉が明治期を代表する美術思想家であった天心・岡倉寛三（一八六二―一九一三）の終焉の地であることは周知の通りです。

天心は晩年、妙高赤倉の自然が気に入り、ここに山荘をたてて「東洋のバルビゾン構想」を練っていました。



夏の芸術学校開校式（妙高高原メッセにて）



夏の芸術学校授業風景。佐藤一郎校長先生の講義

バルビゾンとはパリ郊外にある村の名前です。豊かな自然に魅せられて、この地に住みついたコロー、ミレー、ルソーといった芸術家たちが意欲的な作品を世に送り出したため、彼らは「バルビゾン派」とよばれました。結果的にはバルビゾンは十九世紀フランスにおける新芸術文化運動の拠点になったのです。

天心はこの響（ひびき）に倣（なら）って「世界一の景勝地」と称えた赤倉に新時代にふさわしい日本の芸術活動の拠点を築こうと考えていました。しかし、五〇年という彼の生涯は事を成し遂げるには、あまりにも短かすぎました。話を今に戻しましょう。

妙高夏の芸術学校の設立は一九九六年です。当時、東京藝術大学学長の職にあった平山郁夫先生は、御自身が天心の系統でいえば孫弟子にあたるため、天心の考えに共鳴し、赤倉に新しい芸術拠点を築こうとして「妙高バルビゾン構想」を推し進められました。この構想の一環として夏の芸術学校は誕生したのでした。

本年の開校式は七月二十三日。台風十二号の影響もあって、時折り、雨、風が強まり、先が案じられました。幸い天候は回復。二十六日の最終日まで予定通り日程をこなして閉校式

財団専務理事
小宮 浩

（こみや・ひろし）



に至りました。この間、聖なる山・妙高も雄大な山容を見せるなど、受講生の皆さんには満足のいくものだったのではないのでしょうか。

本年の受講生は百人余。東京藝術大学名誉教授の佐藤一郎校長、日本美術院同人の倉島重友主任講師をはじめとする先生方の熱い講義と指導。二十周年を迎えた芸術学校からは得るものは大だったと思います。

長寿化社会となり、余生――残りの人生は大変長くなりました。この恩恵をいかに充実したものとして過ごすかは、喫緊の問題です。

妙高夏の芸術学校は、問題解決の一助ともなっている気がいたします。事実、受講生の中には夫婦おそろいで筆を執っている御姿を何組もお見うけしました。毎年、毎年、妙高で描いた作品が人生の足跡として残ることは素晴らしいことではないでしょうか。

二十年間続いた妙高夏の芸術学校ですが、小学生を対象としたコースが無くなったことは残念に思っています。このコースは父兄同伴が割合多く、結果的には親子そろって「芸術」の雰囲気を感じ、楽しめることが魅力です。こうした体験が未来の芸術家を育て、あるいは教養人を育てる種まきになるのだと信じます。

文化事業を維持することは大変なことですが二十周年を機に次の十年にむけて、この問題を検討していたければ……と思います。

二十年にわたり毎年、芸術学校を開校できたのも、ひとえに妙高市をはじめ関係者皆さまの協力そして努力によるものです。あらためてその熱意に敬意と感謝を表す次第です。

役員等のご紹介

当財団の役員等を左記のとおりご紹介いたします。

◎名誉顧問（一名）

三笠宮崇仁殿下

◎顧問（二名）

俵谷 利幸 弁護士

玉井 賢二（公財）平山郁夫シルクロード 美術館副理事長

◎評議員（二十名）

秋山耿太郎 朝日新聞社 顧問

池田 政治 東京工科大学 デザイン学部長

今井 環（株）NHKエンタープライズ 代表取締役社長

内村 宏（株）三越伊勢丹 呉服・美術統括部 美術商品部長

浦井 正明 寛永寺 長廊

奥島 孝康 白鷗大学 学長

加賀 信子（株）高島屋 美術部長

是枝 伸彦（株）ミロク情報サービス 代表取締役会長

酒井 裕（株）精養軒 代表取締役社長

佐藤 一郎 金沢美術工芸大学 教授

島谷 弘幸 九州国立博物館 館長

白井 勝也（株）小学館 最高顧問

澄川 喜一（公財）横浜市芸術文化振興財団 理事長

高橋 司（公財）鹿島美術財団 常務理事

野間 省伸（株）講談社 代表取締役社長

箱島 信一（一財）歴史民俗博物館振興会 理事

土生 修一（公社）日本記者クラブ 事務局長

真室 佳武 東京都美術館 館長

水野敬三郎 東京藝術大学 名誉教授

吉見 淳一 読売新聞東京本社 事業局次長兼文化事業部長

◎理事（十名）

理事長 宮田 亮平 東京藝術大学 学長

副理事長 林 有厚（株）東京ドーム 相談役

専務理事 小宮 浩 当財団 専務理事

伊東信一郎 ANAホールディングス（株） 代表取締役会長

高嶋 達佳（株）電通 会長

滝 久雄（株）NKB 取締役会長 創業者

田邊三郎助 町田市立博物館 館長

西浦 忠輝 国士館大学 教授

野口 昇（公社）日本ユネスコ協会連盟 理事長

宮廻 正明 東京藝術大学 教授

◎監事（二名）

西巻 茂 税理士

布施 謙吉 弁護士

二〇一五年四月現在 敬称略／五十音順

文化財保存修復支援カレンダー 募金のお知らせ

二〇一六年のカレンダーは、昨年に引き続き、出光美術館所蔵の国宝「伴大納言絵巻」を、東京藝術大学日本画研究室が現状模写した作品を題材にし、今回で四年目となります。

平安時代における四大絵巻の一つで、実際に起きた事件をもとに制作された壮大な歴史ドラマが描かれています。

上、中、下巻に分かれているこの物語が完結するまで、今後数年間にわたり取

り上げてゆく予定ですのでご期待したいと思

います。また、オリジナル作品に優るとも劣らない模写制作の卓越した技術をご堪能

いただくともに、文化財保護の重要性をご理

解いただきご支援いただければ

幸いです。



中巻－4の場面（模写：吉田侑加）

一口二千五百円以上のご寄付をいただいた方に、このカレンダーを一部贈呈します。お申し込みは左記までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

文化財保護・芸術研究助成財団カレンダー係

電話（〇三）五六八五―二三一一

受付時間 十時～十七時（土、日、祝日及

び十二月二十六日～一月三日を除く）

カレンダーをプレゼントします

当財団では、文化財保護の精神と重要性を広く知っていただくため、前記の二〇一六年版文化財保存修復支援カレンダーを、応募いただいた方の中から抽選で二十名様にプレゼントします。

【応募方法等】

ハガキに、「文化財保存修復支援カレンダー希望」とご記入の上、住所、氏名を明記し、左記へお送りください。発表は、当選者への発送をもって代えさせていただきます。○応募先

一一〇一〇〇七七

台東区上野公園十二―五十

（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

○締切

平成二十七年十一月末日

お願い

◎東日本大震災被災文化財の救援と復旧のための募金のお願

皆様のご支援、ご協力により東日本大震災により被災した文化財の救援・復旧支援事業につきましては、前号（二〇一五年夏号No.七十八号）でご報告しましたとおり徐々に復興は進んでおりますが、いまだ支援を待っている文化財があります。引き続き皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます

募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。

*

銀行振込（①銀行名②口座番号③名義）

①三井住友銀行 上野支店

②普通 6615496

③（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要

上、財団事務局に事前にご連絡をいただ

けると幸いです。

（電話：〇三一五六八五―二三一一）

郵便振替（①振替番号②加入者名）

①00160・5・12319

②（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

※通信欄に「地震」とお書きください。

なお、募金はクレジットカードからも可能です。詳細は当財団のホームページをご覧ください。

◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い 《賛助会員》 当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。 法人正会員 年額（1口） 50万円 個人正会員 年額（1口） 1万円 維持会員 年額（1口） 10万円 《ご寄付》 賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けてしております。ご寄付の方法はいろいろありますので、左記に方法等をご紹介します。詳細は当財団事務局又は左記の問合せ先まで。 ①特定寄付信託 信託した金銭を運用収益とともに寄付するものです。当財団はみずほ信託銀行と特定寄付信託に関して契約しています。 問合せ…みずほ信託銀行（03・3274・9203）。 ②クレジットカード クレジットカードの利用額の一定割合をジャックスが当財団に寄付をするものです。当財団は「社会貢献」をテーマにした「寄付金付きクレジットカード」を発行している（株）ジャックスと契約しています。 問合せ…（株）ジャックス（東京センター046・298・6000 大阪センター06・6872・6111） ③YAHOO！JAPANネット募金 クレジットカード又はTポイントにより寄付をするものです。 ネットからYAHOO！JAPANネット募金を選択、「文化・スポーツ」を選択、「文化財保存修復募金」からご寄付できます。 ④遺贈 遺言によるご寄付も受け付けております。 ⑤銀行振込又は郵便振替 銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付け	けております。 賛助会員ご入会とご寄付を頂きました皆様 ●平成27年5月21日から9月15日まで 敬称略／順不同 ☆寄付金 ○文化財保存修復・芸術研究等助成事業 ヤフーネット募金（84名様） ○東日本大震災被災文化財救援 復旧支援事業 （株）NHKプロモーション 読売新聞 東京本社 （特非）日本国際文化遺産協会 理事長 松岡久美子 プリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン
--	---

本年も、上野の山の文化施設では「上野の山文化ゾーンフェスティバル」として展覧会や演奏会等様々な催し物を開催中（予定）です。その一部をご紹介しますので、ご利用のご参考にしてください。詳細はそれぞれの主催者等にご確認ください。 （展覧会等） ☆東京国立博物館 （○三・五七七・八六〇〇ハローダイヤル） ①特別展「アート・オブ・ブルガリ130年にわたるイタリアの美の至宝」 九月八日（火）～十一月二十九日（日） ②特別展「始皇帝と大兵馬俑」 十月二十七日（火）～平成二十八年二月二十一日（日）	展覧会・演奏会等情報
--	---------------------------

③秋の庭園解放 十月二十七日（火）～十二月六日（日） ☆国立科学博物館 （○三・五七七・八六〇〇ハローダイヤル） ①企画展「世界のヒョウタン展―人類の原器―」 九月十五日（火）～十二月六日（日） ②特別展「ワイン展」 十月三十一日（土）～平成二十八年二月二十一日（日） ☆国立西洋美術館 （○三・五七七・八六〇〇ハローダイヤル） ①企画展「黄金伝説展 古代地中海世界の秘宝」 十月十六日（金）～平成二十八年一月十一日（月・祝） ☆東京藝術大学大学美術館 （○三・五七七・八六〇〇ハローダイヤル） ①武器をアートに―モザンビークにおける平和構築 十月十七日（土）～十一月二十三日（月） ②藝大コレクション展 十一月十日（火）～十一月二十九日（日） ☆国立国会図書館 国際子ども図書館 （○三・三八二七・二〇五三） ①展示会「日本の子どもたちの文学―国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」 十月三十一日（土）まで ※九月十七日アーチ棟がオープンしました。 ☆黒田記念館 （○三・五七七・八六〇〇ハローダイヤル） ①黒田記念室（常時、ご覧いただけます） ☆東京都美術館 （○三・三八二三・六九二一） ①特別展「マルモッタン・モネ美術館所蔵モネ展」 九月十九日（土）～十二月十三日（日） ☆上野の森美術館 （○三・三八三三・四一九一）	
---	--

①シカゴ ウェストンコレクション 肉筆 浮世絵―美の競艶 十一月二十日（金）～平成二十八年一月十七日（日） ☆都立旧岩崎庭園 （○三・三八二三・八三四〇） ①岩崎久彌生誕150年記念展示 十一月十一日（水）～十一月十八日（水） ☆台東区立下町風俗資料館 （○三・三八二三・七四五一） ①特別展「下町の台所―人々の暮らしと食文化」 九月十九日（土）～十一月八日（日） ☆台東区立朝倉彫塑館 （○三・三八二一・四五四九） ①特別展「朝倉彫塑館80年 我家吾家物語」 九月十九日（土）～十二月二十三日（水） ☆台東区立書道博物館 （○三・三八七二・二六四五） ①企画展「漢字のヒ・ミ・ツ―甲骨文字から楷書まで―」 八月一日（土）～十一月十五日（日） （演奏会） ☆東京藝術大学奏楽堂 （○三・五五二五・二三〇〇） ①うたシリーズ「山田耕筈没後50年」 十一月七日（土）十五時～（二千円） ②ピアノシリーズ「ブラームス室内楽のよるこび」第3回 十一月八日（日）十五時～（三千円） ③モーニングコンサート11 十一月十二日（水）十一時～（千円） ④藝大オーケストラ定期演奏会第53回（藝大定期第372回） 十一月十四日（土）十四時～（千五百円） ⑤藝大フィルハーモニア合唱定期（藝大定期第373回） 十一月二十一日（土）十五時～（三千円）	
---	--

⑥藝大定期吹奏楽第81回 十一月二十三日（月）十四時～（千五百円） ⑦モーニングコンサート12 十一月二十六日（木）十一時～（千円） ⑧信時潔没後50年「海道東征演奏会」 十一月二十八日（土）十五時～（三千円） ⑨ピアノシリーズ「ブラームス室内楽のよるこび」第4回 十一月二十九日（日）十五時～（三千円） ☆東京文化会館 ①モーニングコンサート番外編「秋の夜コソコンサート」 十一月十一日（水）十九時～（五百円） ②プラチナ・シリーズ第3回 ゴッティエ・カプソン（チェロ）&児玉桃（ピアノ） 十一月二十七日（金）十九時～（五千円） ☆上野学園 石橋メモリアルホール （○三・三八四三・三〇四三） ①上野学園大学「第64回オーケストラ定期演奏会」 十一月十三日（金）十八時三十分～（千五百円） ②ガムット・パツハ・アンサンブル演奏会 十一月十五日（日）十五時～（四千円） ③上野学園大学「第4回合唱定期演奏会」 十一月二十一日（土）十五時～（無料） （講演会）（聴講料：無料） 講演会は事前申し込み制です。次のいずれかでお申し込みください。 ①往復はがきによるお申込み 「往信用裏面」に①住所、氏名（ふりがな）、②参加人数（一枚のはがきで二名まで。二名の場合それぞれ氏名を明記）、③電話番号、④希望する「講演番号」と「演題」（一枚のはがきで一講演まで。複数の講演をご希望の場合は別のはがきでお申し込みを、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を「記入の上左記へお申し込みください」。	
---	--

宛先…110ー8615台東区東上野四ー五ー六 台東区役所文化振興課内「上野の山文化ゾーン」係 (2)インターネットによるお申し込み 台東区ホームページからアクセス ※お問合せ…台東区役所文化振興課 ○三ー五二四六ー一一五三 ☆戦争と俳句―自分の体験を語る（講演番号9） 講師…日本芸術院会員 金子兜太 日時…十一月十四日（土）十三時三十分～十五時 場所…日本芸術院会館講堂 申込締切日…十月二十九日（木）必着 定員…百二十名 ☆日本における動物園の成立（講演番号10） 講師…上野動物園長 土居利光 日時…十一月十五日（日）十四時～十五時三十分 場所…東京都美術館 講堂 申込締切日…十月二十九日（木）必着 定員…二百三十名 ☆東照大権現という神様（講演番号11） 講師…寛永寺 長薦 浦井正明 日時…十一月十六日（月）十四時～十五時三十分 場所…寛永寺 大書院 申込締切日…十月二十九日（木）必着 定員…二百名	計 報 渡邊明義様 当財団評議員、事業委員でありました同氏（元文化庁文化財鑑査官、元東京文化財研究所長）が、平成二十七年三月三十日にご逝去されました。永年にわたり評議員及び事業委員として財団の運営にご尽力賜りました。ここに深く感謝し謹んでご冥福を
--	--

お祈り申し上げます。 栗山尚一様 当財団前副理事長でありました同氏（元外務事務次官、元駐米大使）が、平成二十七年四月一日にご逝去されました。永年にわたり理事及び副理事長として財団の運営を支えていただきました。ここに深く感謝し謹んでご冥福をお祈り申し上げます。	今号の表紙 平山郁夫 修学院離宮寿月観 修学院離宮は、第百八代天皇であらせられた後水尾法皇（一五九六～一六八〇）が東山三十六峰のひとつ修学院山に造営された山荘で、十五年の歳月をかけ、法皇六十四歳のみぎりに完成した。離宮は山裾にひらかれた上、中、下の御殿から成りたっている。 寿月観は下離宮にある御座所で、法皇のお気に入りであった。 六室から成る数寄屋風のこの建物は、文政七年（一八二四）に復興されたもの。「一の間」の南側の濡れ縁の庇下（ひさし）に後水尾法皇宸筆の額がある。寿月観の名は、ここから月がよく見えることに由来する。飛び石が配された白砂の前庭が印象的である。
--	---